

フードシェアリングアプリ導入の研究について

フードシェアリングとは

無駄になりそうな食品を、企業が割引などを行い、消費者に上手に届けることで、食品ロスの発生を減らす取り組みのことをいいます。

近年では、食品ロスが発生する飲食店・生産者・加工者と、余剰商品を安く購入したい市民とのマッチングを行う、スマートフォン等のアプリの利用が進んでいます。

他市町村の事例では、アプリ運営企業と連携協定を締結したり、市民へフードシェアリングアプリの紹介を行う活動を行ったりして、食品ロスの普及啓発を行っているところがみられます。

導入目的

- ・食品ロス削減による環境負担減少を図る。
- ・利用者の購買行動による地域コミュニティや産業の活性化を図る。

他市町村の事例

江戸川区、足立区、千葉市の3市から事例について聴取した。

江戸川区の事例

開始時期 令和4年10月

導入アプリ タベスケ

経費 自治体の経費：システム導入 220,000 円及び月額利用料 88,000 円

市民の利用料：無料、事業者：年間 1,000 円

登録店 12店舗

備考 アプリの管理を自治体自身が行う必要がある。また登録店が伸び悩んでおり、事業継続については、検討中。伸び悩みの理由としては、既に費用をかけない食品ロス削減について自主的に取り組んでいるスーパーマーケット等の店舗が多いことから、費用をかけてまでアプリを導入するメリットがあまりないため、店舗数が増えないという。

足立区の事例

開始時期 令和2年10月

導入アプリ TABETE

経費	自治体の経費：無料 市民利用料：無料、事業者は初期費用 10,000 円
登録店	31 店舗
備考	自治体はアプリの管理には関与せず、区内の登録者および登録店舗の情報提供だけ受けられる。商業地域以外の区全体に登録店が広まらないことに苦慮している。

千葉市の事例

開始時期	不明
導入アプリ	TABETE、Kuradashi
経費	自治体の経費：無料、市民の利用料および事業者の費用は不明
登録店	不明
備考	アプリの管理には関与せず、区内の登録者および登録店舗の情報提供だけ受けている。このことから、地元のお店とのつながりがないことが弱みで、地元企業とのタイアップイベントをこれから行いたいとのことでした。

佐倉市の市民および事業者に対するアンケート結果（抜粋）

佐倉市民および事業者の食品ロス及びフードシェアリングアプリに関する関心を調査するため、市民向けと事業者向けに分けた調査を行いました。

【市民対象の調査概要】

調査期間：令和6年10月1日から令和6年10月31日
調査対象：佐倉市民
調査方法：ちば電子サービスによるインターネット上のアンケート
周知方法：こうほう佐倉10月1日号、LINE 佐倉市公式アカウントでのお知らせ2回
回答数：116

【事業者対象の調査概要】

調査期間：令和6年10月1日から令和6年10月31日
調査対象：佐倉市内事業所
調査方法：ちば電子サービスによるインターネット上のアンケート
周知方法：佐倉商工会議所のホームページ及びメールによる周知
回答数：17

【両調査の結果概要】

市民向けのアンケートでは、9割以上の人がフードシェアリングアプリの利用をしたいと回答している一方、企業向けのアンケートでは利用したいと答えたかたが半分強にとどまりました。

結果が分かれた理由としては、フードシェアリングアプリの費用負担が大きい企業にとっては、食品ロスに費用がかけられないと考える方が多かったことや、もう既に食品ロス削減の自主的な取り組みをしており、実際に成果が出ていることから、改めてフードシェアリングアプリを有料で試してみるメリットがないことが挙げられていました。